



第3回「IELTS エキスパートが伝授する IELTS スピーキングで使える表現集」

嶋津幸樹

全8回でお届けする連載「世界と繋がる IELTS」、第3回の今回は IELTS スピーキングで使える表現を紹介していきます。高得点を狙うにはスピーキングでもライティングでもアウトプットする段階においては「型」を覚えて応用し、自分のオリジナルの文章を作ることが重要です。今回は IELTS スピーキング 8.5 を取得したときにも活用した 20 の「型」を厳選してお届けしますので、自分のオリジナルの文章作成にお役立てください。

●自分の生まれ育った場所について描写

I was born and raised in _____.

IELTS スピーキングで自分自身の生まれ育ちや出身を述べるときに使える表現です。生まれた場所と育った場所が違う場合は I was born in _____ but raised in _____ を活用しましょう。日本人学習者のよくあるミスとしては「私は田舎出身です。」を My hometown is countryside. としてしまうことが多くありますが、I'm from the countryside. が自然な表現ですので注意しましょう。

例: I was born and raised in Yamanashi, which is two hours away from Tokyo. 「東京から2時間離れた山梨で生まれ育ちました。」

●自分の故郷にある魅力的な場所について具体例を描写

My hometown has preserved a lot of historical places such as _____ and _____.

IELTS スピーキングでは自分の故郷について問われることがあるため、具体例を用意しておくとい良いでしょう。pre(前に)+ serve(保つ)という語源から未来に備えて保っておくと解釈できるので「遺跡や食物を保存する」や「破壊や消滅から守る」という意味にもなります。We need to preserve the Japanese countryside. 「日本の田舎を守らなければならない」という表現も覚えておきましょう。

例: My hometown has preserved a lot of historical places such as temples and shrines. 「私の故郷は寺や神社などの歴史的な場所を数多く保存している。」

●自分にとって聞いたことがある事柄を描写

_____ sounds familiar to me.

見覚えのあるものを描写する時には、I know A. 「Aを知っている」や I have seen A. 「Aを見たことがある」以外にも A is familiar. 「Aは見覚えがある」という表現もあります。familiar(～をよく知っている)は「人」と「もの」

の位置によって前置詞が異なります。A is familiar to B.「A(もの)はB(人)に精通している」、B is familiar with A.「B(人)はA(もの)に精通している」の型で覚えておきましょう。

例:The name of the temple sounds familiar to me.「そのお寺の名前を聞いたことがある。」

●自分が驚いたことを描写

_____ was a great surprise to me.

何かに驚いたことを描写するときに日本人学習者は受動態の形で I was surprised by/at/that で始めることができますが、名詞形の surprise を用いて例文のように表現することができます。例文をパラフレーズすると I was surprised that he got married.になりますので、必要に応じて使い分けましょう。

His marriage was a great surprise to me.「私にとって彼の結婚は大きな驚きだった。」

●自分の両親に背中を押してもらったことを描写

My parents encourage me to _____.

en(動詞化接頭辞)+ courage(心)＝「人の心を動かして励ます」と解釈でき、cord(芯)や record(記録)と同語源です。encourage A to B で「AにBするように励ます」の型で覚えましょう。enの代わりに「否定」を表す接頭辞の dis が付くと対義語の discourage(落胆させる)となります。

例:My parents encouraged me to study abroad.「両親は私に留学するように促した。」

●何かと比較して自分の好きなことを描写

I definitely prefer _____ to _____.

prefer は選択肢がある中で別の対象物と比較して「～が好き」、と言いたい時に使用し、prefer A to B(BよりAの方が好き)の型で使います。副詞の definitely を用いることで動詞を強調することができます。

例:I definitely prefer coffee to tea.「私は絶対的に紅茶よりコーヒーの方が好きである。」

●自分の人生に大きな影響を与えたことを描写

_____ had a great influence on my life.

ここでは influence は名詞で「影響」、動詞では「～に影響する」という意味になります。その語源は占星術の専門用語で in(中に)+flu(流れる)、「中に流れ込んでくる」＝「天体から流れ込んでくる運氣」とされています。語源の flu(流れる)がつく単語は他にも flow(流れ)、flush(トイレの水を流す)、flute(楽器のフルート)、fluid(流動体)、fluency(流暢さ)など多岐にわたります。

例:Winning a gold medal had a great influence on my life.「金メダルを獲得したことは、私の人生に大きな影響を与えた。」

●自分にとって大変だったことを描写

It was challenging for me to _____.

日本語でチャレンジというと、新しいことに挑戦するイメージがありますが、英語では難易度が高くやりがいのあることを描写するときに challenging を使います。It was challenging but rewarding.「大変だったけどやり甲斐があった」という表現も覚えておきましょう。

例:It was challenging for me to study abroad.「私にとって留学することはチャレンジングだった。」

●努力して達成したことを描写

I finally achieved my dream of _____.

achieve は a (方向) + chieve (頭) = 頭 (頂点) に達するという語源があり、「達成する」という意味があります。achieve one's dream of ~ing の型で覚えましょう。achieve 以外にも attain (大変な目標に向けて努力して成し遂げる)、accomplish (目標や任務に対して全力を尽くして成し遂げる)、fulfill (野望や夢を成し遂げる) などがありますので文脈に合わせて適材適所に使用しましょう。

例:I finally achieved my of studying abroad.「海外留学するという大望を成し遂げた。」

●将来貢献したいことについて描写

I would like to contribute to _____ in the future.

contribute の語源は con(共に) + tribute(与える)であり、共通の目的を持って行うというイメージから contribute a large sum of money(大金を寄付する)や contribute to a newspaper(新聞に寄稿する)のようも使います。contribute はポジティブなことに使用するイメージがありますが、contribute to climate change(気候変動の一因となる)のようにネガティブなことにも使います。

例:I would like to contribute to the education of people in future generations.「次の世代の人々のための教育に貢献したい。」

●自分が魅了されている物について描写

I have always been fascinated by _____.

fascinate (魅了する)はこのように受動態で使うことが多く、語源を辿るとラテン語の「魔法にかける」に由来します。例文は私がオックスフォード大学の面接で実際に使った表現ですが、心が揺さぶられるほど何かに魅了されている時に使います。

例:I have always been fascinated by the atmosphere of Oxford.「私はオックスフォードの雰囲気魅了されている。」

●日本人が難しいと思うことを描写

Japanese people find it particularly difficult to _____.

IELTS スピーキングでは自国のことについて問われることがあります。そのため自分の国の文化や歴史、国民性などについて表現できるようにしておきましょう。こちらの SVOC の 5 文型の文章でも副詞の particularly を用いて動詞を強調しています。

例:Japanese people find it particularly difficult to express themselves.「日本人にとって自分自身を表現することは難しい。」

●ある色に関連するものを描写

This colour is associated with _____.

IELTS スピーキングでは「色」に関する質問をされることがあります。この文章は associate A with B (A と B を関連付ける) の型を受動態の形にしたもので、様々なコンテキストで活用できます。好きな色を回答する時にその理由や根拠を述べるために色に関する知識を増やしておきましょう。

例:The colour red is associated with love and fire. 赤色は愛や火を連想させる。

●世の中の人々が重要性を認識した方が良いことを描写

People should recognise the importance of _____.

recognise の語源は re(再び) + co(共に) + gn(知る) + ise(動詞化接尾辞)となり、久々に会った旧友が激変していても再び共に知ることができるのかという風に覚えられますが、今回は「事実として認識する」という意味

で recognise the importance of A (A の重要性を認識する) という型で使います。

例: People should recognise the importance of learning foreign languages. 「人々は外国語学習の重要性を認識すべきである」

●日本に利益をもたらさなかったことを描写

_____ brought little benefit to Japan.

これは bring benefit to A (A に利益をもたらす) の型に形容詞の little (ほとんどない) を追加して否定的な意味にしたテンプレートです。否定的用法の little を用いることで not や never の繰り返しの使用を避けることとなります。benefit の bene は「良い」という語源があり、bonus(ボーナス)や benediction(祝福)と同語源です。

例: The business brought little benefit to Japan. 「その事業は日本にほとんど利益をもたらさなかった。」

●成功に必要なことを描写

_____ is of primary importance to your success.

前置詞の of+抽象名詞=形容詞になり、ここでは名詞の importance (重要性) を修飾する形容詞 primary (主要な) を入れることにより「最も重要な」という意味になります。primary の prim には「第一」という語源があり prince (王様) や princess (王女) と同語源です。

例: Honesty is of primary importance to your success. 「成功するには誠実さが最も重要である。」

●海外に行く時に必要なものを描写

It is necessary to _____ when you go abroad.

necessary は避けられない必然性が伴う時に使われます。動詞形の need や助動詞の should も必要性を強調する時に使われますが、1 つの表現に偏らずバラエティーに富んだ表現をするようにしましょう。ちなみに名詞形の necessity の複数形で necessities は「必需品」という意味にもなりますので覚えておきましょう。

It is necessary to have a passport when you go abroad. 「外国に行く時にはパスポートが必要である。」

●過去 10 年で生活を改善させたものを描写

_____ has improved our lives over the past decade.

IELTS スピーキングでは過去 10 年間でどのように変化したかを問われることがあります。過去と現在を描写する表現は必須です。「過去 10 年間にわたり」という意味の over the past decade はあらゆるコンテキストで使えます。期間に関する表現は連載 7 回目に詳しく解説します。

AI has improved our lives over the past decade. 「人工知能は過去 10 年にわたり我々の生活を向上させた。」

●人々が信用するものを描写

People trust well-known _____ more than unknown ones.

IELTS スピーキングでは自分のことだけでなく一般的な事柄についても問われることがあります。さらに何かと比較することで情報量を増やすことができるので今回のように more than~ を用いるのも有効です。さらに trust は「信頼する、信用する」という動詞ですが、より堅い表現として have trust in A (A を信頼する) も覚えておきましょう。

例: People trust well-known companies more than unknown ones. 「人々は無名の会社よりよく知られている会社を信用する。」

●自分の信条に反することを描写

It goes against my principles to ____.

principle の prin は「最初の」の「第一の考え方」という解釈ができ、「原理、信条、主義」という意味になります。この「型」は自分の強い想いを伝えるときに使える表現で、締め言葉として使えます。principle は prince(王子) princess(王女)と同語源なので覚えておきましょう。

例:It goes against my principles to cheat on the test. カンニングをすることは自分の信条に反する。

いかがでしたでしょうか?IELTS スピーキングでは自分の考えや意見について表現する必要があるため、このような自分だけのオリジナルの文章作成は非常に役立ちます。日頃のインプット学習においても常にスピーキングやライティングで使えるような表現に注目し、メモを取る習慣をつけましょう。私自身も留学中に IELTS で使えるような表現を常に意識してメモをとっていました。拙著「IELTS 必ず☆でる単スピードマスター(Jリサーチ出版)」は実際に英国留学中にメモした定型表現を掲載しています。また今回の 20 の「型」は拙著「ビジュアルで覚える IELTS 基本英単語(ジャパンタイムズ出版)」から引用していますのでそちらも併せてご覧ください。次回は「IELTS リスニング満点は英語学習のスタートライン!概要と勉強法」と題して IELTS リスニング 9.0 満点を取得するまでのリスニング勉強法についてお伝えします。

[ブログトップへ戻る](#)